

# いのちは大切

国本 せな

ある日、友だちがこうつうじこにあって、にゆういんすることになりました。

とてもなかよしの友だちが、こうつうじこにあうとは、おもってもいませんでした。とてもかなしかったです。

ある日、お見まいにいて、こえをかけたらかうつうじこにあった子から小さななみだかでてきました。わたしもなみだかでてきました。

早くよくなって、また、わたしといっしょにあそびたいと思って、まい日まい日、お見まいにいきました。

そして、目をとじていた友だちは、やっと目をあけました。すごうれしかったです。

わたしは、友だちに、

「ありがとう」

といいました。しかし、また目をとじてしまいました。

でも、一ど目をあけてくれていたので、わたしはとてもほっとしました。

そして、わたしがびよう室を出ようとする、目をとじていた友だちが、  
「まって！」

といいました。

わたしは、友だちにかけよって、

「早くよくなってね」

と、手をにぎりしめました。

目をつぶっていた友だちの手は、とてもあたたかかったです。ずっと手をつないでいたかったです。

わたしは、今までいのちのことを考えたことがなかったので、いのちの大切さをしりました。

だからわたしは、まい日をえがおですごしていきたいです。